



第 11 回定時総会報告

日 時：2012 年 5 月 26 日（土）15：00～17：30

会 場：西宮市市民交流センター2F ホール

I. 開催報告

今総会における CAP センター・JAPAN 正会員数は 89（団体正会員 87、個人正会員 2）のところ（定数 45）、表決権数は 77（当日出席 37、書面による出席 40）でした。当日は 47 の方が参加されるなか、第 11 回定時総会が行われました。

議長には鷺見雅子さん（CAP 周南/山口）、また、議事録署名人には、清水美津子さん（NPO 法人 CAP いずみ-暴力防止・人権ネット/大阪）、藤原幸子さん（CAP あい/滋賀）が選任されました。

今回の運営にあたっては、複数名ご出席いただいた団体正会員から計 2 人（西山こずえさん/CAP にしのみや/兵庫、足立淳子さん/ふくちやま CAP /京都）の方に、会場整理、表決カウントなどをお願いし、多くの皆さまのご協力によって総会運営を行うことができました。ありがとうございました。

当日は、すべての議案が承認され、2012 年度の事業が本格的にスタートいたしました。

お手元にある議案書の（案）の文字をお消してください。

以下に、総会当日の進行概要をご報告します。

（1）理事長挨拶（挨拶概要）

「定時総会も 11 回を重ねることとなり、私が理事長を引き受けて 3 年になりました。CAP センター・JAPAN に関わらせていただいてから、いろいろな人と非常に多くの出会いがありました。出会いの中でたくさんのごことを勉強させていただきましたし、日本全国の CAP のスペシャリストの方々がいかに熱心に活動されているかということもあちこちで感じることができました。日々地域の中で CAP 活動を進めてくださって、そして子ども達と一緒に安心・自信・自由を考える活動をして頂いている皆さまへ敬意を払うとともに、そのような活動の中で CAP センター・JAPAN が支えられているという思いを強くしております。

この 3 年間いろんなことがありましたけれども、今日は、昨年度の総括と様々な次に向けてのことを考える大切な時間ですので、どうか自由な意見、忌憚のない意見を沢山出していただいて、ぜひ皆さま方と一緒に、子ども達の生きる力に寄り添う CAP の活動になればいいと思っています。」

（2）審議結果

【第 1 号議案 2011 年度事業報告および収支決算報告について】

議案書に沿って、事業報告は横山常任理事、収支決算報告は事務局長長谷が説明し、その後、質疑応答が行われました。

採決の結果、承認する 77 票、承認しない 0 票で、第 1 号議案は承認されました。

内訳）承認する（出席 37・書面表決 25・議長委任 15）

【第 2 号議案 2012 年度事業計画案および収支予算案について】

議案書に沿って、事業計画案は横山常任理事、収支予算案は事務局長長谷が説明しました。
採決の結果、承認する 76 票、承認しない 1 票で、第 2 号議案は承認されました。

内訳) 承認する (出席 37・書面表決 22・議長委任 17)
承認しない (出席 0・書面表決 1)

【第 3 号議案 役員の選任について】

議案書に沿って、側垣理事長が説明しました。

採決の結果、承認する 76 票・承認しない 1 票で、第 3 号議案は承認されました。

内訳) 承認する (出席 37・書面表決 22・議長委任 17)
承認しない (出席 0・書面表決 1)

【その他】

議長解任の後、石田文三監事、角田尚子理事、田上時子理事の 3 名の役員による退任挨拶が行われました。

閉会後は、事務局長長谷から 2012 年度事務局スタッフおよびトレーナーの紹介がありました。

II. 当日の質疑応答の概要**【第 1 号議案 2011 年度特定非営利活動に係る事業報告および収支決算報告について】**

質問 1 会計の助成金について、事業報告書の方では「子どもへの暴力防止のための基礎講座」で「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」助成の活用とあるので、第 2 事業に活用されたということなら、参考資料の事業別収支計算書の管理部門の 150 万円とあるのは、第 2 事業が 80 万円の間違いではないか。

回答 1 事業報告書の方では、たしかに「子どもへの暴力防止のための基礎講座」で活用したと書いている。ただし、「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」は、団体の運営全般に対する助成であり、申請の際に事業予算を出すものではなかったため、一旦管理費助成として組み込み、団体の新規事業の企画等に有効に活用させていただいた。

【その他】

質問 1 今回退任された理事が二人とも ICAP 連絡委員会委員なのだが、後任に関する話がなかった。ICAP 委員会委員には、CAP についてよくご存じの方に就いていただきたい。

回答 1 今回退任するお二人には、理事を離れても今後も協力していただくようお願いをしている。事務局の長谷も ICAP 連絡委員会であり、事務局とのやりとりで充分に先方とコミュニケーションが成り立っているので、今後も心配の無いよう進めていきたい。

III. ふりかえり

当日出席正会員に、アンケートをお願いしたところ、28 の団体正会員にご提出いただきました。ご協力をありがとうございました。いただいたご意見は、今後の総会運営に反映してまいります。なお、会員からのアンケート内容は、ホームページ「正会員のページ」に UP しておりますので、併せてお読みください。

以下に、事務局のふりかえりをご報告します。

〈事前〉

議案書等の作成・発送

- ・NPO法の改正により、収支計算書が活動計算書へ変更になったことを受けて、CAPセンター・JAPANでは今回の総会資料より新表記で対応した。事業報告の議案については、従来はフォーマットがあったが、自由形式が可能となったため、来年度以降は事業報告議案を見やすいものに検討していきたい。
- ・書類の事業実施日・実施予定日などに複数個所の間違いがあり、メールマガジンで訂正を行った。今後は、最終チェックを怠らず、間違いのない書類作成をめざしたい。
- ・4月下旬の発送を目標としており、今年度も総会1ヶ月前に発送することができた。

情報共有

- ・いただいた質問は、電話で内容を確認するなどして、適切な回答ができるよう心がけた。

〈総会当日〉

運営

- ・総会前に実施された自主上映会「隣る人」には、予想を上回る多くの方にご参加いただき、一般の方への配布資料が不足したので、今後は十分に備えたい。
- ・質疑に時間をかけるため、議案説明は短時間で行うことが必要だが、来年度以降、さらにわかりやすい説明を心がけたい。

表決

- ・3つのブロックをつくり、初めにブロックごとの総数をカウントしてから行ったので、各議案のカウントがスムーズに行えた。

〈その他〉

- ・団体正会員、個人正会員の方々すべてに関心をもってください、年1回の総会が多くの方の集う場となるよう、企画に工夫を行っていきたい。

IV. 自主上映会「隣る人（となるひと）」

総会前に、2012年5月から東京で劇場公開となった「隣る人」の自主上映会を実施し、一般の方を含め85の方にご参加いただきました。内容は、8年間にわたって、児童養護施設の日常生活を撮影したドキュメンタリーです。

東京で試写会をご覧になった会員より推薦を受け、まだ全国公開されていませんでしたが、事務局が配給元と何度か連絡をして実施にこぎつけました。当日、ご覧頂いた方からは多くの感想をご記入いただき、その感想は配給元にもご報告しました。

この夏から本格的に劇場公開が始まりますので、関心のある方は、『隣る人』のホームページをご覧ください。<http://tonaru-hito.com/>

V. Panasonic NPOサポートファンド 組織診断報告会

総会終了後も、正会員の皆さん、理事を含め約30の方が引き続き会場に残っていただきました。事務局の長谷と重松が、2011年度「Panasonic NPOサポートファンド助成」を受けて、下半期に行った組織診断の取り組み報告を行いました。

CCJは、この組織診断助成のグループコンサルティングを選択し、子ども分野で活動する団体4団体とともに、東京での計4回の集合研修に参加し、3つのプロセスの共有や互いの分析報告について意見交換を行いました。4月上旬には、今回の組織診断における個別コンサルタントにファシリテーター

トいただきながら、理事長、理事、事務局、委員を含む数名が参加してSWOT分析（*）を行いました。

*SWOTはStrength（強み）、Weakness（弱み）、Opportunity（機会）、Threat（脅威）の頭文字。組織のビジョンや戦略を企画立案する際に利用する現状を分析する手法の一つ。

プロセス①「内部環境分析」(2011年12月～2012年2月)

理事、委員会委員、事務局スタッフ13人が130項目からなるアンケートに回答したものを分析。

プロセス②「ステークホルダー意見収集」(2011年2月～3月)

CCJがこれまでお世話になってきた外部関係者（ステークホルダー）3者から「CAPプログラム、CCJはどう見えているか」についてヒアリングを実施し、分析。

プロセス③「外部環境分析」(2011年2月～3月)

現在の政治、経済、社会状況等に照らし、活動を促進/阻害する要因の洗い出し。

当日の報告では、今回の助成決定の際の推薦理由、上記の組織診断の流れ、とくに診断プロセス②の「外部からCAPプログラム、CCJはどう見えているか」について、ステークホルダーから伺った話をまとめてお伝えすることに重点をおきました。報告後は、参加者4～5人ずつがグループに分かれて、感想などを述べあいました。

このような取り組みを経て、いよいよ組織の基盤強化をめざした新たな取り組みを始めることになりました。6月下旬には組織診断に続いて申請していた「Panasonic NPOサポートファンド キャパシティブルディング助成」にも採択され、本格的な組織基盤強化に大きな後ろ盾をいただきました。

2012年度からは「すべては子どもの“安心・自信・自由”に」というキャッチフレーズを掲げ、以下の3点を柱に取り組みます。

- ・ 中長期計画・目標・社会的指標の策定
- ・ 社会的発信力の強化
- ・ 地域のCAP活動の拠点強化

7月上旬を目途に、当日配布した資料に追加を含めてホームページ「正会員のページ」にUPいたします。また、今回採択された「Panasonic NPOサポートファンド キャパシティブルディング助成」の取組みについては7月中旬を目途にご報告いたします。各地で事業を行う際にもご説明する機会を設けていく予定です。

子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない社会をめざすために、皆さまとも考え、歩んでまいりたいと思います。ご理解・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

以 上

【資料】 2012 年度 CAP センター・JAPAN 運営方針 ～わかりやすく届ける・つながりを強化する～

- 1 子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない社会の実現にむけて、CAP プログラムの考え方、さらにはプログラムそのものの普及をめざす。そのために、社会とのつながり、様々な他団体とのつながり、そして CAP 活動に関する覚書（MOU）を交わした地域の CAP グループとのつながりを強化する。
- 2 社会への発信を今まで以上に積極的に行ない、子どもの人権擁護に取り組む社会資源としての CAP をアピールして、会員増員、寄付金増額で 2012 年度の単年度黒字をめざす。



(1) 2012 年度事業方針

①持続可能な CAP 活動をめざした事業を実施する。

- ・ユース世代にむけた子どもへの暴力防止活動への参画のためのアプローチをさらに進める。
 - *第 2 事業：兵庫県、東京都における専門学校生・大学生・大学院生のための子どもへの暴力防止のための基礎講座の開催
- ・多職種・多領域において子どもの視点に立った子どもへの暴力防止アプローチを推進する（分野をつなぐ・協働）とともに、積極的な広報に取り組む。
 - *第 2 事業：子どもへの暴力防止のための基礎講座の開催
 - *第 4 事業：広報 子どもの人権、子どもへの暴力防止に関わる情報の発信
 - *管理部門：新たな事業の創出を図る

②各地域における CAP 活動を展開しやすくするため、支援体制の充実と資金確保を行ない、地域の CAP グループとの協働を促進する。

- *RTC：地域 CAP グループの活動のサポート
- *管理部門：助成金の獲得に努める
- *第 6 事業：地域 CAP グループとの協働

③多様な手法を用いながら社会発信をさらに強化・促進する。

- *第 4 事業：広報 ホームページやブログ、ツイッターの活用
- *第 4 事業：出版 CCJ ブックレット子どもたちと明日をつくろう②の発行
- *第 6 事業：他団体のホームページやメールマガジンへの事業案内の掲載

(2) 2012 年度 RTC 活動方針

①あらゆる研修の機会をとらえ、CAP 活動のフレームの共有・情報の共有をはかる。

②これまでの活動とこれからの活動をつなぐ。

- *地域で活動する CAP グループとのコミュニケーションの促進に努める。
- *地域会議への参加・派遣

③CAP プログラムの将来にむけての可能性を模索する。

- *CAP プログラム導入時のアプローチや CAP 活動のフィールドを広げるための工夫など、地域や CAP グループのサクセスストーリーを情報収集し、RTC 全体で共有を行なう。